

令和3年度（2021年度）学校評価報告書

北海道札幌手稲高等学校長 吉 田 岳 夫

1 本年度の重点目標

- （１）生徒が自ら学ぶ意欲と主体的な学習の仕方を身に付けるよう、学習指導の効果的な方法を工夫・改善する。
- （２）自らの「品性」を高め、「良識」ある言動ができる生徒に成長するよう、生徒指導の効果的な方法を工夫・改善する。
- （３）生徒が高い志を持ち、主体的に進路実現に取り組むよう、年次・分掌・教科が連携し、進路指導の効果的な方法を工夫・改善する。
- （４）生命の尊厳を基調とした正しい健康観を確立し、生徒一人一人に生涯を通じて安全な生活を営む能力や態度を培うよう、健康・安全指導の効果的な方法を工夫・改善する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	・シラバスの様式を見直し、観点別評価について研修を深めた。 ・公開授業や授業評価を実施し、新学指導要領を意識した授業改善に取り組んだ。 ・新型コロナウイルス感染症で欠席している生徒の学習の保障に努めた。	・学習指導に対して、日頃から工夫・改善とスキルアップに教職員が取り組んでいることがわかった。今後も継続してほしい。 ・生徒の学習が遅れないように、積極的に学習の保障に取り組んでほしい。
改善方策	・授業評価については、シラバスや教務内規とも連動させながら見直しを図っていく。 ・新学習指導要領や55分授業のねらいをふまえて、研修会等を実施しながら授業改善の本質を捉え、教職員で共有を図っていく。	
生徒指導	・多くの生徒が穏やかで落ち着いた学校生活を過ごしている。また、規範意識についても概ね良好である。 ・自転車事故や自転車のマナーについて、より指導を徹底していく。	・落ち着いた学校生活を過ごしながら、進路目標の実現に向けて努力している姿がうかがえる。 ・命に関わる事故につながる恐れがあるので、徹底した指導をお願いしたい。
改善方策	・集会や各種講演会等を効果的に活用し、今後も規範意識の啓発に努めていく。 ・自転車通学時におけるマナーについては、教職員が共通認識を持って様々な場面で指導していく。	
進路指導	・コロナ禍の中ではあったが、進路講演会やガイダンス等を工夫して実施し、生徒・保護者へ情報提供を積極的に行った。 ・新しい教育課程に対応した講習体制のあり方を見直した。	・コロナ禍で心配していたが、生徒の進路目標達成のために様々な取組を実施していただき、好結果を生んでいる。 ・親身な指導体制が確立されており、今後、成果が一層向上することを望む。
改善方策	・生徒の進路希望に応じた指導の徹底を図り、進路実現を果たす。 ・常に情報提供に努めながら、本校としての効果的な進路指導体制を検討していく。	
信頼される学校づくり	・学校だより等により地域に対して本校の教育活動をアピールできている ・学校webページの更新頻度を増やし、積極的に情報発信をしていく必要がある。	・令和6年度の50周年記念事業に向けて、本校を積極的にアピールし続けてほしい。 ・学校webページの刷新を図り、効果的な活用を望む。
改善方策	・webページの更新回数を増やし、積極的に本校の教育活動をアピールしていく。 ・地域の人材や教育力を活用した研修会や講演会を検討していく。	
公表方法	・PTA役員会、学校評議員会において説明した。 ・保護者・地域には概要を学校だよりを通じて示した。 ・外部には本校ホームページ上に掲載した。	